

道徳科学習指導案

指導者 T1 重森 恵美子
T2 毛利 佐由理

- 1 日時 平成30年6月27日(水)5校時
- 2 学年 第1学年(16名)
- 3 主題名 「だれにでも おなじように」 [C 公正, 公平, 社会正義]
- 4 ねらい

誰に対しても同じように接することがすてきであることに気づき、好き嫌いにとらわれな
いで同じようにしていこうとする心情を養う。

- 5 教材名 「もりの ぶれぜんと」
(出典:「小学どうとく 生きる力」日本文教出版)

6 主題設定の理由

○主題観

本主題は、第1学年及び第2学年の内容項目 [C 公正, 公平, 社会正義], 「好き嫌いにとらわれな
いで接すること。」に基づくものである。これは、第3学年及び第4学年では、「誰に対しても分け隔
てをせず、公正、公平な態度で接すること。」、第5学年及び第6学年では、「誰に対しても差別する
ことや偏見を持つことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。」に繋がっていく。

集団の生活において、秩序や和を保つためには、自分の好き嫌いや損得にとらわれず、みんなと仲よ
くし公平な態度で、社会生活を営まなければならない。そのためには、相手の立場に立って、相手の気
持ちを考えることが大切である。自分と異なったものの見方や考え方を否定したり、自分の好き嫌い
や損得で物事を判断したりするのではなく、誰が見ても納得のいく公正、公平な態度で決めることが
大切である。児童が誰に対しても偏見を持たず、公正、公平に接することのよさを実感できるように
と考え、本主題を設定した。

○児童観

本学級の児童は、内容項目 [B 友情, 信頼] を中心に、関連項目 [A 善悪の判断, 自律, 自由と責任],
[C 公平, 公正, 社会正義] を関連させた総合単元的道徳学習プログラムを通して、友達と仲よく友達
と仲よく、助け合って活動できる児童を目指して取り組んできた。

本学級の児童は、世羅町内の4つの保育所、幼稚園から入学してきた。入学当初は、保育所、幼稚園
ごとの結びつきが強く、遊ぶときでも、英語などでの活動の場面でも、入学前からの友達と一緒にいる
場面が多く見られた。しかし、日を追うごとに、出身保育所、幼稚園ごとの垣根はなくなり、新しい友
達を作って遊ぶ児童の姿が見られるようになった。新しい友達を作ろうと積極的に働きかけたり、困っ
ている友達に優しく接したりするなど、友達のことを考えた言動がとれる児童が多くいることも分かっ
た。しかし、その一方で、遊びの中でのトラブルの訴えも増えてきた。(略)

仲が良いからと特別扱いをすることは、周りの友達に不快な思いをさせてしまうことや、みんなが納
得するためには、同じように接することが大切であることに気付かせていきたい。

○指導観

本教材は、4枚の場面絵で構成されている。1場面では、森の動物達が並んでたぬきからプレゼント
をもらっているところに、きつねがやってくる。2場面では、きつねが列の一番前に割り込み、周りの
動物達から、後ろに並ぶように注意される。3場面は、きつねが後ろに並んだところへ、おおかみがや
ってくる。ねずみやスカンクは、おおかみを列の前に入れようとする。4場面では、おおかみは、列の

前に入るのを断り、きつねの後ろに並ぶというお話である。この教材を通して、ねずみやスカンクが、きつねとおおかみに対して同じように接していないことが問題であることに気付かせることで、公正・公平にすることが大切であると捉えさせることができるのではないかと考える。

指導に当たっては、「ねずみやスカンク」のきつねに対する言動とおおかみに対する言動の違いに目を向けさせ、並んでいるみんなが納得するためには、誰にでも同じように接することが大切であることに気付かせていく。また、同じように接するということが自分自身の生活では、どのようなことを指すのか、具体的な場面で考えさせることで、生活に生かしていけるようにしていくため、次の5点に留意する。

- ① 導入では、パペットを使って児童が不公平と感じる場面を作り出し、課題設定を行う。
- ② 展開前段では、列に割り込んだきつねに対しては、みんなで「だめだよ。」と注意をしているが、こわいおおかみに対しては、列の前に入れようとしている。ねずみたちの態度におかしいところはないか、2つを比較して考えさせる。また、そんなみんなの態度を見て、きつねが不公平感を持っていることを役割演技を通して感じ取らせる。
- ③ 中心発問では、おおかみが、前に入るのを断り後ろに並ぶのを見て、ねずみやスカンクがきつねにどんなことを言っているかを考えることで、自分達がしたことが、きつねにいやな思いをさせてしまっていたことや不公平感を与えてしまっていたことに気付かせる。その際、ねずみやスカンクの表情に着目させ、考える手がかりとしていく。
- ④ 展開後段では、課題について振り返り、同じようにするとはどうすることなのか、日常生活の場面ではどんなことに当たるのかを考えることで、生活に生かせるようにしていく。（研究主題とのかかわり“自分とのかかわり”）
- ⑤ 終末では、振り返りの視点を与えて、本時の学習を振り返らせ、学習したことを交流させることで、自分の学びと友達の学びをつなげられるようにする。（研究主題とのかかわり“人とのかかわり”）

7 準備物

場面絵，中心発問やキーワードのカード，ワークシート，感情カード（顔のカード）

電子黒板

8 学習指導過程

	学習活動	○主な発問 ・児童の心の動き	指導形態		○留意点●評価 ★資質・能力評価
			T 1	T 2	
導入 (3分)	1 パペットの言動から問題点に気づき，課題意識を持つ。	○みんなと，もっと仲良くなりたいな。○○さん，仲良くしてね。 (握手をする) 「ありがとう。仲良くしようね。」 「えっ，わたしにはしてくれないの。これじゃあ，仲良くなれない。」	発問	板書	○興味を持たせるためにパペットを使い，パペットの言動から，問題点に気付かせ，課題意識を持たせる。
みんなとなかよくなるためには，どうしたらいいのだろう。					

<p>展開 (35分)</p>	<p>2 教材「もりのふれぜんと」の場面絵を見て、話し合う。</p>	<p>○割り込みをして、一番前でプレゼントをもらおうとしているきつねを見て、ねずみとスカンクはどんなことを言っているのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後から来て、ずるいよ。 ・割り込みはいけないよ。 ・みんな並んでいるんだから、ちゃんと並ぼうよ。 	<p>発問</p>	<p>板書</p>	<p>○場面絵を1枚ずつ提示し、状況を把握しながら、発問をする。</p> <p>○ねずみ達が、怒って注意していることを抑える。</p>
		<p>○おおかみが近づいてきたとき、ねずみとスカンクは、どんなことを言ったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おおかみさん、どうぞ。だって、おおかみさんは怖いから。 ・おおかみさんなら仕方がない。 	<p>発問</p>	<p>板書</p>	<p>○森の動物たちは、おおかみが怖いから仕方なく列に入れていることを、動物たちの表情から気付かせていく。</p>
		<p>○ねずみやスカンクのしていることを見たきつねは、どんなことを思っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何で、おおかみはよくて、ぼくはだめなんだろう。 ・みんな、ずるいなあ。 ・ぼくの時はだめだって言ったのに、おおかみさんにはどうぞっというんだ。ひどいなあ。 	<p>発問 役割演技</p>	<p>板書 役割演技</p>	<p>○自分には「だめだ。」と言い、おおかみには「入っていい。」と言うねずみ達に対するきつねの思いを、役割演技を通して考えさせる。</p> <p>○見ている児童にも、ねずみ達の態度をどう思うか尋ねる。</p>
		<p>【中心発問】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○おおかみが後ろに並んだのを見たねずみとスカンクは、きつねにどんなことを言ったでしょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・きつねさんだけに言ってごめんね。 ・おおかみさんときつねさんに違うことを言ってしまった。きつねさんに、悪いことをした。 	<p>機関指導</p>	<p>機関指導</p>	<p>○きつねに対する態度とおおかみに対する態度の違いに気付かせた後、なぜいけないかペアで考えさせる。</p>
		<p>○ねずみやスカンクの表情に注目させながら気持ちを考えさせる。</p> <p>○ワークシートに考えを書かせた後、ペアで交流をさせる。 (役割演技) (人とのかかわり)</p>	<p>発問</p>	<p>板書</p>	

<p>展開</p>	<p>3 自分の生活を振り返る。</p>	<p>【解きほぐしの発問】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>○人によって違うことをするのは、なぜいけないのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・同じようにしないと、みんなが笑顔になれない。 ・誰かが悲しむ。 ・喧嘩になるかもしれない。 ・みんながいいと思えるようにならないし、仲よくなれない。 <p>○みんなと仲よくなるためには、どうすればいいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誰にでも、同じように注意する。 ・誰にでも、同じようにやさしくする。 ・人によって言うことを変えない。 	<p>発問 板書</p>	<p>【キーワード】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・だれにでも同じように ・特別にしない </div> <p>○みんなが納得できるようにすることが大事であることに気付かせる。</p> <p>○同じようにする(人によって違うことをしない)とはどうすることなのか、生活に戻し、具体的に考えさせる。 (自分とのかかわり)</p>
<p>終末 (7分)</p>	<p>4 振り返りをする。</p>	<p>○「みんなと仲よくなるためには、どうすればよいか」今日の学習を振り返りましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな同じように注意するといと思った。 ・仲がいいからと、特別にしてはいけないと思った。 ・仲がいい友達に、先にブランコを譲っていたけど、今度からは、来た順にしようと思った。 	<p>発問 机間指導</p>	<p>板書 机間指導</p> <p>○振り返りをワークシートに記入後、全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●誰に対しても同じように接することがいいということに気づき、誰にでも同じようにしていこうと考えている。 <p>自己理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ★誰に対しても同じように接することがいいことに気づき、自分の生活に生かそうとしている。

9 板書計画



10 教材分析図

【主人公】並んでいる動物たち（ねずみ、スカンク）

【変容】 きつねに対する態度とおおかみに対する態度が違っていたことが、いけないことだと気付いた。

【きっかけ】 列に入れてあげようとしたおおかみが、「割り込みはいけないよ。」と言って、列の後ろに並んだ。

【助言者】 おおかみ

【道徳的論点】 C 公正，公平，社会正義

動物たち

- ① プレゼントをもらうために、一列に並んでいる。。
- ② 列に割り込んだきつねに、みんなが注意をする。
- ③ きつねが、後ろに並ぶ。
- ④ おおかみがやってくるのを見て、ねずみやスカンクが列の前に入れようとし、ほかの動物は、それを黙って見ている。
- ⑤ おおかみは、列に入るのを断り、後ろに並ぶ。

動物たち

【中心発問】

おおかみが後ろに並んだのを見たねずみとスカンクは、きつねにどんなことを言ったでしょう。

【解きほぐしの発問】

人によって違うことをするのは、なぜいけないのでしょうか。